

第2回セミナーを5月17日(土)13:30～15:30 に開催しました。参加者の皆さんよりお預かりしたリフレクションをまとめました。

会 場 愛知文教大学 201 教室

テーマ 「特別支援教育を標準装備に」

講 師 学び合う学び研究所フェロー 中川 行弘先生

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、教師の心持ちです。

支援が必要な子は、教師が支援をしてなんとかしなければならない思いがちでした。ただ、今回のセミナーで、子ども同士の関わりが大切というのを学びました。教師が関わるよりも、より親密により生き生きと関われる姿に感銘を受けました。

また、支援生徒をなんとか変えなければという焦りを感じながら接していましたが、そうではなく、少しずつ変えていけばいいという気持ちになりました。決して見離さずに少しずつ変わるきっかけを与え続けるとDくんのような表情に変わるといいなと思います。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、人（子ども）はすぐには変わらないが、変わりつづけるです。

D君を中心にビデオを観た。言葉は聞こえないが、身振りや動作はよくわかる。6月と3月とでは、9歳の子どもにとっては長い時間が経っている。その間のD君と周りの子どもたちの成長には、目を見張らせられる。もちろん、放っておいては望ましい変化は生じない。教師の、すぐには成果の見えない取り組みを愚直に続けることの尊さをもた、今日の授業ビデオから感じる事ができた。

中川先生の引用の仕方に気になる点があった。①授業ビデオの著者は第一に授業者である。その名前がないのはいかがなものか。②スライドスライド 3, 4 ページの「特別支援は・・・」が自分の言いたいことだとするのなら、その出典がないのはなぜだろうか。最後の資料の引用名の多さと比べて、その違いはどこから出てくるのだろうか。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、座席の形態です。

今回のセミナーを受け、児童にどのように学ばせるか、ということについて学ぶことができました。ただ単純に教師が児童に教える直接的な学びだけではなく、教師が児童と関わらない時、座席の形態から生まれる児童と児童の交流によってでも学びを生めれることができるのだとわかりました。べっちょり座席については初めて知ったので、さまざまな席の形態についても学んでみたいと思いました。それだけではなく、その座席の形態がどのような意味を持ち、土曜な時に活用すると効率よく授業をすることができるのかなども併せて学習することができればいいました。

授業映像をみた話し合いを通して、自分とは違う視点の意見がたくさん出てきて大変深い学びになりました。Dさんについて、一つの花では、全く興味を示さなかったけど、初雪の降る日では授業に興味を示していたのは、Dさんは文字から想像するのが苦手だけれど、耳に入ってくる教科書の読み上げから聞こえる音声から場面や情景を想像するのがいけるのではないかと、という意見を聞いてとても納得しました。デジタルの読み聞かせは、マークがついているから、外国ルーツのあるDでも聴きやすいのではないかとそこから学びを深めることができました。私は、ICTを活用した授業に大変興味があるので、このようなICT活用ができるのだと新たに知見を広げることができました。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、誰一人取り残さない授業づくりの難しさです。

新人の先生が取り組まれている授業作りから、いろいろと学ぶことができました。子どもと子どものつながりをどう築いていくべきか？子どもどう教材と対話させていくべきか？など学び合う学びを考えていく上で大切なことを、2本の動画の変化から考えさせられることができました。教師の働きかけや学校・学年の支援に何があったかが知りたいと思いました。

変化を記録することの重要性も学びました。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、通常学級に在籍する支援が必要な子の変容が、2本の授業ビデオから見ることができました。講義の主題「特別支援教育を標準装備」が、学び合う学びを進めている学級で事実として起きていることが実感できました。

国語の授業における、音読の重要性も感じました。また、子どもの姿を見て、皆さんでリフレクションしたことは、改めて大事だと感じました。

講義の内容、皆さんとのリフレクション、いずれも勉強になりました。自分の勤務する市に還元していきたいと思います。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、特別支援教育の見方・考え方(様々な特性への知識理解、応用行動分析学の視点など)は、全ての教員が標準装備しなければならないということです。

特性が強い児童生徒を中心に据えた学級経営・授業実践を行っていくことが肝要だと学びました。特性が強い児童生徒への支援や合理的配慮は、当然ながら模索していくことが求められますが、その子を支える周りの児童生徒へのアプローチも行っていくと、誰一人として独りにしない学級・学びが実現できると思いました。今担任している学級においても、手がかかる児童と捉えるのではなく、その子は、何に困っているのか？何を求めているのか？など、その子の内面にもっと目を向けたいと思いました。本日のセミナーを通して、特別支援教育の見方・考え方をもっと磨きたいと思いました。